

# 被災地 NGO 協働センター2015 年度事業計画

## 阪神・淡路大震災 21 年目のスタート

### ～知行合一と百折不撓～

皆様のご協力のもとで阪神・淡路大震災から 20 年間、活動を継続することができました。ありがとうございます。

1 月 24 日～31 日の間には、多様な団体と共に実行委員会を作り「阪神・淡路大震災から 20 年 KOBE 市民と NGO フォーラム」(以下、フォーラム)を開催した。その場では、20 年を振り返りつつ、21 年目のスタートを見据えた宣言文とアクションプラン(以下、宣言とプラン)を作成し発表した。(宣言とプランはじゃりみち 104 号参照)

フォーラムでの一つのテーマは次世代への継承であった。これからの社会を担う次世代へとどのように阪神・淡路大震災の経験や教訓、考え方を受け継いでいくかという点が重要だった。実際のフォーラムの中では、若い世代からも積極的な意見が飛び出し、阪神・淡路大震災を経験した世代との議論を通して、宣言とプランにも次世代の意見を多く取り入れた。こうした議論のプロセスを通して、20 年間の教訓と経験が次世代にとってより身近なものになり、自分たちの感覚で捉えられるようなものになっていたのではないかと思う。宣言とプランは、次世代がそうしたプロセスを経て、20 年間の想いを受け取りつつ、さらに次の世代へと伝えたい想いを自分たちの言葉で表現したものになったのではないか。

こうした想いを共有していくためには、やはり議論のプロセスを経験することが大切である。21 年目のスタートを切った KOBE で、20 年間の想いや経験、教訓を次世代が自分たちのものにしていけるような議論の場とそのプロセスを丁寧に紡ぎだしていきたい。

一方で、東日本大震災の被災地に目を向けると、阪神・淡路大震災の教訓が活かされて改善されたこともあるが、活かされていない現実も目の当たりにする。そのことに注目しなければならない。なぜ、阪神・淡路大震災の経験が活かされなかったのかを丁寧に検証する必要があるだろう。

残念ながら、フォーラムの議論の中では個別のテーマについての検証について時間を割くことがほとんど出来なかった。ま

だまだ積み残された課題が山のようにあり、十分な検証と実践が行われていないのが現実だ。

これから宣言とプランを元に具体的な活動に取り組むにあたって、阪神・淡路大震災からの 20 年間を一つ一つのテーマごとに丁寧に掘り起こし検証していく作業が必要だろう。こうした検証を丁寧に、かつ身近な問題に引きつけて行うことで、新たな災害が発生した時に同じ過ちを繰り返さないことにつながる。また、こうした課題一つ一つは災害時のみならず日常でも課題とされていることばかりである。例えば、阪神・淡路大震災は今後の高齢化社会の問題を先取りしたと言われた。仮設住宅や復興住宅では孤独死が問題となった。その問題は現在ではより深刻化し複雑化しており、孤独死の問題は震災だけの問題ではなくなった。そうした問題を解決するためにも、震災からの 20 年間の検証を通して、現在の社会の問題を炙り出すことが必要だ。さらに検証のみならず、より良い社会を作り出す動きへのきっかけを作ることが大切である。そのためには、“知行合一”と言われるように、知ることと行為を結びつけ、ただ検証をするだけに留まらず、炙り出された課題に取り組む活動を実践し続けることが必要だ。

フォーラムで発表した 10 のアクションを日々の活動や生活の中で実践していくことは、当たり前のようにとても大変なことだ。そして、阪神・淡路大震災の 20 年間を引き継ぎ、さらに次の世代へと伝えていくことは簡単にできることではないだろう。もしかしたら挫折することがあるかもしれない。挫折した時に立ち返る原点として今回の宣言やプランがあるのだと思う。何度くじけても挑戦するという“百折不撓”の気持ちを持って、宣言やプランの行間に込められた想いはなんだったのかという議論を繰り返しながら、そのプロセスを共有し新たな想いも付け加えつつ進んでいくことが、20 年の経験を活かすことにつながる。

21 年目のスタートを切った 2015 年に「いま」を大切にしつつ一つひとつの課題に向き合い地道に実践を続けていきたい。

(頼政良太)

## ■事業概要

### 1. 寺子屋事業

今年度の寺子屋事業は「阪神・淡路大震災から 20 年 KOBE 市民と NGO フォーラム 2015」で作成した宣言文とアクションプランを具現化するとともに、阪神・淡路大震災からの 20 年間で東日本大震災、さらにはその課題につながるテーマについて振り返り、震災 20 年の課題の掘り起こしを行っていく。フォーラム関係者とも連携し、次世代の意見も取り入れながら、さまざまな世代が交流できるようなプログラムやワークショップを行いたい。

### 2. まけないぞう事業

報告書にも記したように、不動寺（岩手県釜石市）をはじめとする寺院関係、生活クラブ生協、「復興グッズ被災地グッズ主宰者連携会議『コレカラ』」などと連携しながら、広報や販売などを行う。5 年目を迎えた被災地では、コミュニティが崩壊し孤独死や自殺などが出ているような深刻な状況で、コミュニティの再構築が急がれる。被災者自身がお互いに支えあえるような関係性づくりを行う。

東北でのまけないぞう事業は今年度も継続する。阪神・淡路大震災より問題が深刻化する中、まけないぞうが「生きがい」となっている作り手さんも多く、販売にも力を入れながら、被災地の情報を発信していく。また、当 NGO と連携している“ワカツク”東北支援プロジェクトでは、上位ランクにあげられている。

### 3. 災害救援事業

災害時には迅速に対応できるよう、昨年のもう一つの東日本大震災の課題などを振り返り、検証を通して見直し、地元の人たちと連携し、被災者の声なき声に耳を傾けながら最後の一人までをモットーに支援活動していく。

昨年に引き続き、将来予想される大災害（南海トラフ巨大地震など）を念頭に置き、事前に顔の見える関係づくりを進めていくとともに、阪神・淡路大震災や東日本大震災の経験を災害が発生した地域の特性に合わせて活用しながら活動を行う。

また、海外での災害発生時には CODE 海外災害援助市民センターの事務局をサポートする。

### 4. 提言(アドボカシー)・ネットワーク事業

今年度は寺子屋事業を柱にしつつ「阪神・淡路大震災から 20 年 KOBE 市民と NGO フォーラム」の宣言文及びアクションプランの具現化を持って提言とする。

また、昨年度から引き続き足湯ボランティアの活動及びまけないぞう事業から見える課題について提言を行う。

### 5. 広報事業

昨年同様、機関紙や HP, FB 等で広報活動を行っていく。

### 6. その他

- (A) 脱原発 24 時間リレーハンストを継続する。
- (B) ユネスコへの伝統木造技術文化遺産登録運動に参加。
- (C) 基本方針に合致すると思われることにおいても可能な限り取り組む。

## ■事業内容

### 1. 寺子屋事業

※今年度はワークショップ形式も行う

- (A) アクションプランの具体化・実践のための学び  
年 3 回程度の予定。

第 1 回：障がい者について学ぼう（予定）

～気軽にボランティアをしてみよう～

井奥裕之（Be すけっと）・風裕之（予定）

第 2 回：舞子高校の取り組みについて学ぼう（予定）

～まずは一歩を踏み出して小さな実践を重ねよう～

舞子高校環境防災科の生徒（予定）

第 3 回：灘高校の取り組みについて学ぼう（予定）

～時にはアホになってみよう～

佐野海士（灘高校 3 年）（予定）

- (B) 阪神・淡路大震災及び東日本大震災広域複合災害の検証  
阪神・淡路大震災や東日本大震災の検証につながる問題  
について学びを深める。

年 3 回程度の予定。

第 1 回：水俣の教訓から学ぶ（5 月 4 日）

谷 洋一（水俣とアジアを結ぶ会）

第 2 回：災害ボランティアのその後（6 月 22 日）

林大造（神戸大学学生ボランティア支援室）

岡本芳子（女性が担う地域防災塾）

頼政良太（被災地 NGO 協働センター）

- (C) 上映会などの開催

以下の上映会を通して、「生きがいとは？」「自然とは？」を考え続ける。このことは文明災害を検証し、自然と一体となった営みの原点を学ぶことにつながる。

第1回：5月22日 「友よ！大重潤一郎 魂の旅」  
以下月1回程度の予定：「光りの島」（6月）、「風の島」（8月）、「縄文」（9月）、「ビッグマウンテンへの道」（10月）、「原郷ニライカナイー比嘉康雄の魂ー」（11月）、「先祖になる」（池谷薫監督）（12月）など  
第2回「こんちくしょう 障害者自立生活運動の先駆者たち」監督：村上桂太郎

## 2. まけないぞう事業

### (A) 東日本大震災支援の継続

現在、作り手さんは55人。仮設住宅から復興住宅への移転にともない、孤独や先の見えない不安から孤独死や自殺、体調の悪化を招いている。コミュニティの再構築を迫られるなか、被災者が少しでも前向きに生きられるように支援活動を行う。寄付金が減り、補助金もなくなり、NGO/NPOなどの支援団体も激減し、被災者自身が趣味や特技などを生かしたサークルのようなものが、各地域で生まれ「孤独な生」を回避できるような被災者中心のコミュニティづくりをサポートする。

避難生活が長期化する中で、精神的にも「まけないぞう」の役割は大きく、心のケアを中心に活動を展開する。また東京大学被災地支援ネットワークの呼びかけでできた盛岡を中心としたネットワーク「復興グッズ被災地主宰者連携会議」へ昨年同様に関わっていく。

◇JT NPO 応援事業助成金申請中。

◇花巻にある被災地支援アンテナショップ「結海」へ被災者支援として売り上げの20%を委託料として支払う。

### (B) 広報・販促に関して

今年度は販売目標を1万5000個とする。宣言とアクションプランを発信しながら、新規開拓・リピータなどの掘り起こしを行い、一層の販促の強化に励む。岩手県不動寺の紹介で、真言宗の本山から3500カ寺に配布される通信に掲載されることとなった。販売につながった寺院は丁寧にフォローしていく。福岡教区でもまけないぞう運動に協力予定。こちらもつながりを大事にする。当事者の情報を丁寧に発信し、支援者と被災者をしっかりとつなげることを意識する。HP、SNS、チラシやリーフレット等関連資料の更新を行いながら、販売強化に努力する。

#### 【販売イベント】

・4/26～29 高幡不動尊金剛寺（東京）別途300個境内にて取扱い販売

・5月真言宗高野山で1200年開祖に伴う大法会の期間中  
リングぞう取扱い販売  
・5/3 わかちあい祭り（京都）  
・7/24～28 第4回岩手発「手しごと 絆フェア コレカラ」（パークアベニュー・カワトク）

### (C) その他

#### ◇被災地ツアー

1ヶ月から2ヶ月ごとにスタッフと同行するかたちで、数名単位で現場視察やボランティア活動を行う。呼びかけについては、ML、HP、Facebookなどを通じて行う。被災地への関心を持ってもらうと同時に販促にもつなげていく。

## 3. 災害救援事業

### 1) 国内災害に関する救援・復興・提言活動

#### (A) 災害発生時の対応

これまで築いてきた震災がつなぐ全国ネットワークとの関係やその他のネットワークを活かしながら、災害発生時にはすばやく被災地へ入り、人間復興へつながることを意識しながら活動する。

#### (B) 復旧・復興支援事業

##### ◇東日本大震災支援の継続

支援活動が脆弱になりつつある5年目の被災地で、まけないぞう事業を通して、引き続き神戸からのサポート体制を行っていく。また、福島再建活動（再生エネルギー活動）に取り組む人たちへの直接支援を模索する。東京大学被災地支援ネットワークとの連携は継続し、足湯ボランティアに関する書籍の発行に関わり、今年度発行される心の健康ガイドブックを活用していく。

##### ◇広島土砂災害支援の継続

昨年8月に発生した広島土砂災害の支援活動を継続する。現地の団体を通して、支援活動及び市民会議への参画等を行う。また、広島密教青年会との共催で1周忌法要を開催する。

#### (C) 南海トラフ巨大地震に備えて

◇静岡県内外の災害ボランティアによる救援活動のための図上訓練（12月開催予定）

静岡県で行われる災害ボランティアのための図上訓練

に参加し、日頃のからの顔の見える関係を築いていく。

#### ◇女性が担う地域防災塾との協力

2014 年度に引き続き、たつの市での活動等に積極的に関わっていく。また、たつの足湯隊の立ち上げのサポートを行う。

#### ◇高知県黒潮町などとのつながりを継続

2013 年度につながった高知県黒潮町と女性が担う地域防災塾（たつの市）のつながりができるようにサポートする。また、その他の地域とのネットワークを引き続き継続していく。

#### ◇和歌山県、徳島県などとのネットワーク作り

昨年 7 月の台風被害の支援に入った徳島県海陽町や足湯隊での活動でつながっている那智勝浦町など、南海トラフ巨大地震で被災地となりうる可能性のある地域とのネットワーク作りを行う。

#### (D) その他

#### ◇KOBE 足湯隊のサポート

KOBE 足湯隊の事務局として引き続き活動をサポートしていく。

#### ◇たつの足湯隊サポート

5 月 17 日足湯ボランティアの座学と実習

## 2) 海外災害に対する緊急援助活動とその後の復興へつなげる支援活動

#### (A) CODE 海外災害援助市民センターとの連携

例年通り、海外での災害発生時には CODE 海外災害援助市民センターの事務局のサポートなどを行う。

## 4. 提言(アドボカシー)・ネットワーク事業

#### (A) 「阪神・淡路大震災から 20 年 KOBE 市民と NGO フォーラム 2015」の宣言文とアクションプランの具現化

寺子屋事業を柱とし、フォーラム関係者と企画を共に考えながら、阪神・淡路大震災及び東日本大震災の教訓や課題を掘り起こし、アクションプランの具現化に向けた学びの場作りとその実践にチャレンジする。

#### (B) 足湯ボランティア活動からの提言

昨年度から引き続いて、東京大学被災地支援ネットワー

クと連携し、震災がつなぐ全国ネットワークの一員として関わっている心の健康ガイドブックの完成を踏まえ、それを活用することによって、足湯ボランティアが心のケアの一つであり、災害時に非常に有効なボランティアであること、専門家との連携でより効果を発揮することなどを発信する。また、昨年から取り組んでいる足湯ボランティアの書籍発刊を持って、提言の第 1 歩とする。

#### (C) まけないぞう事業からの提言

東京大学被災地支援ネットワークが岩手県で構築している「復興グッズ被災地支援グッズ主宰者連携会議」から被災地の課題を抽出し、提言できるようなネットワーク構築を目指す。また昨年から掲げている「災害時ボランティア経済圏」という論の確立については、より具体的な実践事例を残したい。また、寺子屋のテーマとして取り上げたい。

#### <関係団体・グループとのネットワーク>

- ・しみん基金 KOBE/副理事長
- ・震災がつなぐ全国ネットワーク/団体会員
- ・人と防災未来センター/事業評価委員
- ・日朝兵庫友好の会/常任委員
- ・レスキューストックヤード/評議員
- ・CODE 海外災害援助市民センター/理事
- ・日本災害復興学会/理事
- ・内閣府防災ボランティア活動検討会/メンバー
- ・東海地震に備えた災害ボランティアネットワーク委員会
- ・9 条の会ひょうご
- ・神戸大学キャリアセンターボランティア支援部門アドバイザー委員会/委員

#### (その他)

神戸大学非常勤講師/福井大学非常勤講師/神戸松陰女子学院大学非常勤講師/神戸女子大学非常勤講師/日本防災士機構講師

## 5. 広報事業

#### (A) 通信「じゃりみち」の発行

年 4 回の発行を予定

(6 月/10 月/1 月 17 日/3 月 11 日)

#### (B) ホームページの充実

HP はリニューアル中

新 HP アドレス : <http://ngo-kyodo.org/>

(C) Facebook の利用

引き続き Facebook でも情報発信を行う

(D) メールニュースの配信

これまで通りメールニュースを配信する。

◇ハンストニュース

◇まけないぞうがつなぐ遠野物語

◇その他関連ニュース

**6. その他**

(A) 脱原発 24 時間リレーハンストの継続

2012 年 6 月 14 日～引き続き原発がゼロになるまで発信する。

6 月中 : 交流会を行う

(B) 伝統木造技術文化遺産準備会への参加

日本古来の家づくりの技術「伝統構法」をユネスコの無形文化遺産に登録する運動に取り組む。

(C) その他

基本方針に合致すると思われる活動は可能な限り取り組む。